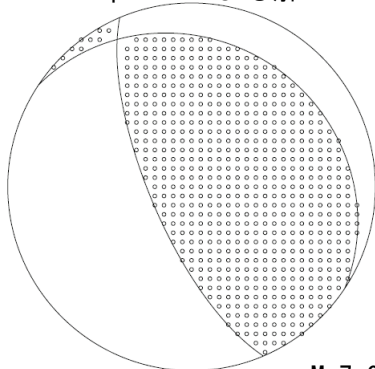


## 2月6日 サンタクルーズ諸島の地震 (W-phase を用いたメカニズム解析)

W-phase による解

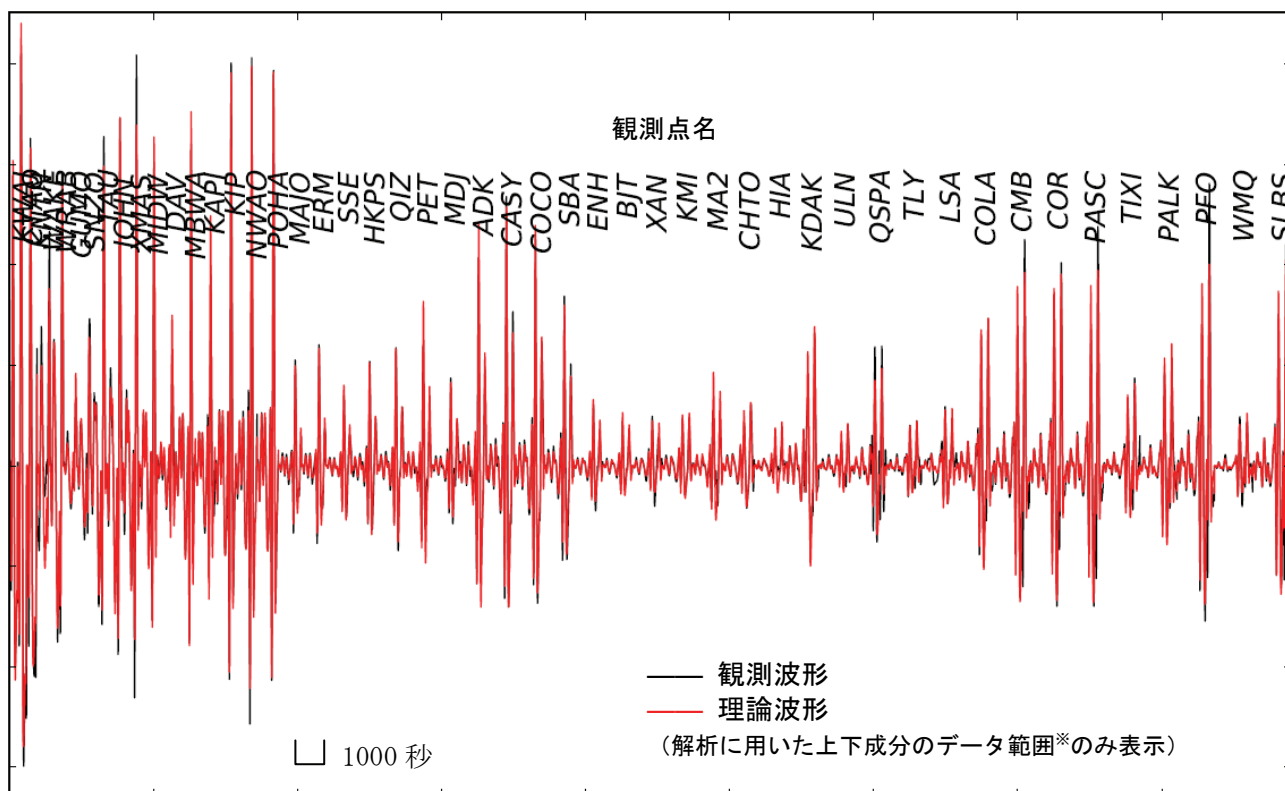


Mw7.9

2013年2月6日10時12分(日本時間)にサンタクルーズ諸島で発生した地震について W-phase を用いたメカニズム解析を行った。メカニズム、Mwとも、Global CMTなどの他機関の解析結果とほぼ同様であり、Mwは7.9であった。なお、W-phaseの解析で求めた震源はS11.1°, E165.0°, 深さ26kmとなった。

W-phaseの解析では、震央距離10°~90°までの49観測点の上下成分、14観測点の南北成分、13観測点の東西成分を用い、100~500秒のフィルターを使用した。

注) W-phaseとはP波からS波付近までの長周期の実体波を指す。



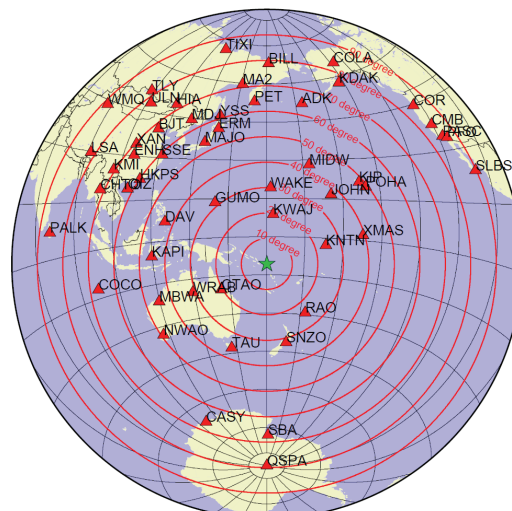
※解析に用いたデータの範囲は15秒×震央距離(度)としており、各々の観測点の解析区間のみを繋げた波形を表示している。

(W-phaseに関する参考文献)

Kanamori, H and L. Rivera (2008): Geophys. J. Int., **175**, 222-238.

解析データには IRIS-DMC より取得した広帯域地震波形記録を使用した。

また、解析に使用したプログラムは金森博士に頂いたものを使用した。記して感謝する。



解析に使用した観測点配置

気象庁作成